



腹水について考える

がんや肝硬変などが進んでくると、お腹が張って痛がったり、腹水そのものが横隔膜を押し上げるため、苦しかったりする方がいます。

基本は薬を使って、尿として出し、腹水の改善に努めますが、なかなか改善しない方が実際は多

く、この場合、特に血液中にある場合は血管内に水



松原 清二 医師
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症専門医
・認知症サポート医

いす。

そこで症状改善には、お腹に超音波を当てながら直接針を刺し、そこから水を抜くという腹水穿刺を行います。この処置の良ところは500ml

リットルほど腹水を抜くと症状が速やかに改善することです。

ただ、この方法だと、腹水に含まれる体の中のアルブミンという物質も一緒に出て行ってしまいます。このアルブミンと

いう物質は、特に血液中にアルブミンを濾過精製し、再度体内に戻すという腹水濾過濃縮再静注法です。この処置が患者さんの日常生活に福音をもたらしてくれたらと思っております。

分を引き留める作用があります。ですが、少なくなると血管から漏れ出てきて手足のむくみになり、腹水そのものがひどくなったりします。腹水を抜くと、一時的に患者さんの症状は良くなるけれども、アルブミンが抜けてしまったため、腹水穿刺をする間隔が短くなり、患者さんも弱ってしまったりと日頃から思っていました。そこで最近始めてみたのが、一度抜いた腹水を濾過して、アルブミンを濾過精製し、再度体内に戻すという腹水濾過濃縮再静注法です。この処置が患者さんの日常生活に福音をもたらしてくれたらと思っております。

訪問診療などの現場や講演会などで、「在宅医療ってどういふものなの？ お願したいのだから、どこに相談したら良いんだろう？」など、

さまざまなお声を頂きます。そこで、予約制ですが、在宅医療相談外来を設けることにしました。

在宅医療についてさまざまなご相談に対応していきますので、気兼ねなくご予約ください。

【まつばらホームクリニック】
042-439-1250
matsubarahomeclinic@gmail.com
西東京市東町 4-14-18-2F
■電話対応：午前9:00～午後6:00
■定休日：土日（祝日は診療）
■訪問地域：西東京市、東久留米、新座、練馬の一部
まつばらホームクリニック 検索